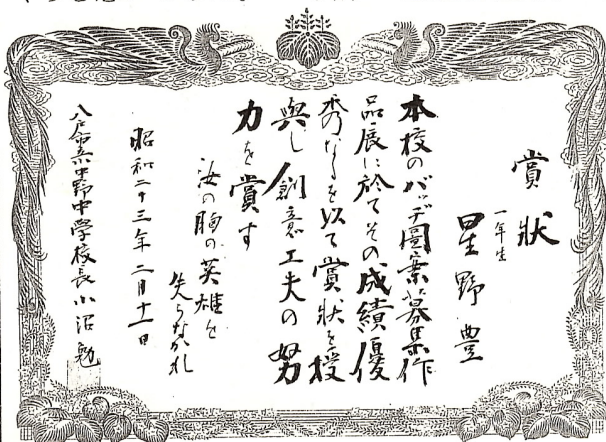


小中野中の歴史シリーズ その2「校章」

「小中野中学校の歴史シリーズ」の2回目は、こな中を象徴する校章についてです。

まず、右の二つの校章を見てください。違いはわかりますか？上の方が学校創立当時のものです。沿革史（エンカクシ：学校の移りかわり等を記録したもの）には、「平成23年6月1日 校章制定（1年・星野豊君の応募作が当選）」と記されています。創立30周年記念誌に、初代校長の小沼勉先生の回想録（カイソウロク：過去のことを思い出して書いた記録）があるのですが、その中に校章についての記述もあります。「制定する前に生徒から原案を募集しました。当時1年生の星野豊君の応募作が当選です。選にあたっては、小井川潤次郎先生に相談したところ、小中野の消防のまといのぼんぼりに似ている、ということでした。星野君はそんなことを考えなかったらしい。偶然の一致でした。しかし、現在のものはいく分曲線になっていますが、星野君の作品のものは、ひし形の斜線がまっすぐになっていました。それを曲線にしたのは小井川潤次郎先生です。あとはいっさい星野君の作品通りです。まれにみる秀作です。」

また、昭和42年10月20日に発行された、創立20周年を記念する学校新聞には星野豊さんの文章があります。「校章図案募集作品展に於いて、小沼勉校長先生から賞状を頂き胸ふくらむ思いでした。～（略）～空襲警報発令で防空頭巾をかぶり、いっせいに校庭の防空壕に退避したものです、暗い防空壕から校舎をのぞくと、正面玄関の上の白い壁に、ダイヤ型の（小）文字が空襲中に勇々と浮き出ていて、いまだに印象に残っています。そのダイヤ型の文字を校章に使用しました。今ではだいふ中学校のまわりに家が立ち並んでいますが、当時の新校舎は広々とした緑のたんぼの中であって、校舎の壁が光輝き雄大そのものでした。そのまの姿と色を取り入れたのが、小中野中学校の校章なのです。校章の（小）の文字はグリーンに、（中）の文字は輝きと雄大さをデザインしたものです。色はゴールドにしました。」



下のものが、現在の校章です。平成7年度に、当時の平川則昭先生（第12代校長・白山台中の校章も考案されています）が、星野さんの承諾を得て、「中」を天地の区別をなくし、上下左右対称にするなどの修正を加えたものです。（創立50周年記念誌に記載されています。）

校章一つとっても、いろいろな思いや願い、誇りが感じられ、70年という伝統が受け継がれているのだと思いました。ちなみに、先日、星野豊さんより、昭和23年に小沼校長先生から授与された賞状や創立20周年記念学校新聞等の寄贈（キソウ：品物をおくりあたえること。）を受けました。資料室に大切に展示・保管したいと思います。ありがとうございました。

【今日のひとりごと】

●先週の金曜日は、防災教育講演会・避難訓練・地域防災訓練（保護者引き渡し訓練）を立て続けに行いました。特に、保護者引き渡し訓練では、100名以上の保護者の方々にご来校（ご参加）いただき、誠にありがとうございました。特に、私が数えたところ、27名の方が徒歩や自転車で生徒を迎えに来ていただきました。ご足労（ソクロウ：人に足を運ばせること。）をおかけいたしました。いろいろな課題も見えてきましたので、今後改善していきたいです。

●今週の日曜日は、小中野小学校のバザーに行ってきました。今の3月に卒業した生徒の保護者の方を含め、大勢の保護者の方々と話をすることができました。先週の金曜日の保護者引き渡し訓練の時とあわせて、約50名くらいの方々と話をしたと思います。小中野中学校に来て1年半の私ですが、いろいろな方と様々なお話（もちろん子どものことですが）ができることを大変うれしく思っています。これからも、お付き合いいただければありがたいです。

●表に、図書室の本を紹介したり、広瀬すずの「チア☆ダン」もいいですよ…と書きました。興味をもってくれるのはありがたいのですが、くれぐれも明後日の3次考査が終わってからにしてください。よ。（図書室には、ほかにも「一瞬の風となれ」「蜜蜂と遠雷」などいい本がいっぱいあります。）